

兵庫・嫁ヶ測遺跡 よめがぶち

- 1 所在地 兵庫県南あわじ市(旧三原郡南淡町)賀集立川瀬字 嫁ヶ測
- 2 調査期間 二〇〇四年(平16)五月～一〇月
- 3 発掘機関 南淡町教育委員会・三原郡広域事務組合教育委員会
- 4 調査担当者 定松佳重・谷口 梢
- 5 遺跡の種類 官衙跡・自然流路・水田跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代・奈良時代・平安時代・中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(鳴門海峡・由良)

嫁ヶ測遺跡は三原平野西部に位置し、一〇〇m西を大日川が北流する。調査は下水処理場建設に伴うもので、二〇〇三年度に奈良時代の掘立柱建物一五棟を確認し、その規模・規格・配置・方向と踏脚円面硯の出土から、国府成立以前の三

原郡衙関連施設で、同時に国府の機能も果たしていたと推測された。

今回はその南側で調査を行なった。その結果、一三世紀後半の遺物を含む水田跡を検出し、その下層で時期の異なる流路を二本確認した。調査区北部を蛇行しながら西流する溝五からは、弥生Ⅰ様式末からⅡ様式初頭までの土器と農具や木製品が多く出土した。

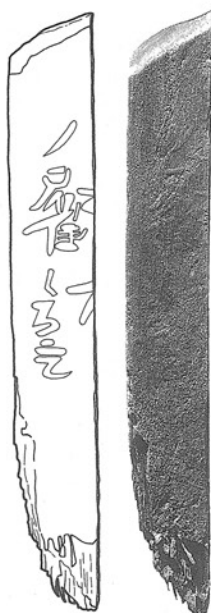
木簡は、調査区中央を東西に流れる溝一の下層部から出土した。溝一は、幅5m弱、深さ〇・九～一・二mを測り、断面は逆台形で、一一世紀の遺物を含む。木などの自然廃棄物がほとんど含まれず、掘り直しの状況が認められ、管理された人工流路であろう。

8 木簡の积文・内容

(1) [八カ] □□□□□□ 219×(30)×8 081

文字の痕跡がわずかに浮き上がって残るのみである。あるいは呪符の類か。なお、釈読にあたっては、奈良文化財研究所史料調査室の方々のご教示を得た。

(定松佳重)



(赤外線斜光画像)